

発行所/国松石材株式会社

本社 福岡市博多区下呉服町8-35
営業本部 粕屋郡志免町南里11-5
TEL 092-957-3500/FAX 092-957-3505
墓石ガーデン 福岡市東区香椎472-3 (三日月山霊園下)
TEL 092-672-7257/FAX 092-672-7258
工場 福岡市東区松田3-16-12
TEL 092-629-1189/FAX 092-629-2043

ホームページ <http://www.kunimatu.com>

松ほっくり

2007年 春号

創業二九〇年

国松石材は、江戸時代の半ばの享保二年(一七一七年)始祖である国松善兵衛が博多の地において、石との関わりを始めたことにより誕生し、今年で二九〇年を迎えます。江戸時代は、將軍徳川家康が江戸に幕府を開いた一六〇三年に始まり、一八六七年の大政奉還(將軍徳川慶喜が政権を朝廷に返すこと)に終わります。

一七一七年(享保二年)は、越後屋、白木屋と並んで江戸の三大呉服店と言われた大丸が当時「大文字屋」として京都伏見に創業した年でもあります。京都の老舗お茶屋さんである一保堂茶舗、福岡八女の日本酒の蔵元「繁樹」や神戸の「沢の鶴」もこの年に創業されています。

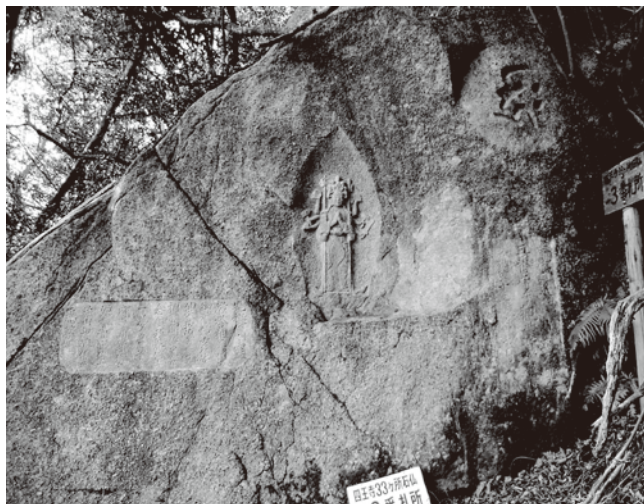
十一代目国松良康が十代目大次郎より受け継いだ国松石材の歴史の口伝と残存する石造物の一部をご紹介します。三代目市三郎は、大野城市の四王寺三十三ヶ所に石仏を寛政十二年(一八〇〇)に建立しました。市三郎は、信心深い人で、海辺で観音様の形の枝を拾い、縁起物として自宅に持ち帰り信仰しました。

五代目清次は、長崎県五島の石を博多まで運び、板石として加工しました。五島列島で採れる石は、平島石と呼ばれ、優しく柔らかな風合いをもち、自然の景観によくなじむ石です。割り肌のまま敷石に使用することもできます。八代目清右衛門は、明治三十七年に福岡市東公園の亀山上皇像建立に携りました。

九代目清助は、櫛田神社の鳥居の設計と墨掛けに携りました。鳥居を建立するにあたって墨掛けの作業とは、鳥居の形を決定する重要な作業です。

十代目大次郎は、博多の町をこよなく愛し、旧町名の石碑設置等に貢献して、第八回博多町人文化勲章を頂きました。大次郎の時代に宗像大社本殿の両脇に鎮座する狛犬を建立しました。

現社長の十一代良康には、忘れられない夢があります。ある日寝ていると、夢の中に十人の代々の先祖が現れ、自分の周りを囲っていたそうです。彼らは、言葉はありませんがじつと十一代目を見ていたそうです。そこで感じたのは、この二九〇年続く国松石材をしっかり守っていきなさいという熱い思いでした。



◆四天王寺三十三カ所石仏 三番札所
右上に梵字、真ん中に千手観音菩薩が彫られています。

国松石材が石屋として二九〇年続いできたのは、稀有なことです。国松善兵衛からこれまで築き上げてきた歴史を大切に三〇〇年、四〇〇年と、石とともに歩んでいきたいと思っています。

【四王寺の石仏】

糟屋郡宇美町にある四王寺山の石仏は、江戸時代中すぎ、寛政年間（一七八九〜一八〇〇）三代目国松市三郎によって建立されました。新西国三十三ヶ所霊場の各札所として明治から大正の頃まで参詣者が絶えなかったといわれています。



◆四天王寺三十三ヶ所石仏 二十三番札所

県民の森センターから車で大宰府方面に行くとき焼米ヶ原の駐車場があります。そこから九州遊歩道を宝満山方面に十分ほど歩き、獣道を歩いて行くと、左手に手前から順番に第四番、第三番、第二番札所があります。第三番札所は、二尺ほどある千手観音菩薩で他の石仏と違い磨崖仏です。

磨崖仏とは、岩に浮き彫りにされた仏様のことです。自然の岩壁などに造立されているため移動することができません。自然の岩山に仏像を刻むことはアジアの仏教圏で広く行われており、中国の龍門石窟やインドのアジャンタ―石窟が有名です。これら大規模な遺跡は「石窟」と呼ばれ、朝鮮半島や日本などに分布する比較的小規模なものは「磨崖仏」と呼ばれています。

日本の磨崖仏の造立開始時期は平安時代初期と言われています。江戸時代後期になると各地に多くの磨崖仏が盛んに造立されるようになりました。

四王寺の石仏は、霊場として四国や篠栗の八十八ヶ所霊場、札所の石仏の系統と全く別の石仏です。

地元民や近況の人々が千人参りと称して列をなしたものであるとか、寛政年間から更にさかのぼった天正年間の岩屋城戦記で命を落とした数千余百の将兵の霊魂を祀るために建立されたといわれています。

第二十番札所の菩薩は、三宝荒神で、その信者は八女、久留米地方までおり、現在も団体で詣でています。

どの石仏もたどり着くには、丘を登ったり、細い獣道を歩いたり容易ではありません。それでも石仏の前には、

花や、お賽銭がお供えしてあります。二百年の歴史を経て仏様のお顔は薄れかけているのもありますが、大切に扱われてきたことが解ります。現在も続く参詣者の思いが伝わってくるようでした。

【亀山上皇】

亀山上皇像は、福岡市東公園内にあります。東公園あたりは、十三世紀の元寇襲来の時、戦場となったところですから。

元のフビライルハーンが王位につき、南宋（上海付近）を滅ぼして中国を統一すると、南宋と親交の深かった日本を征服しようとした。最初の襲来を文永の役（一二七四年）、二回目を弘安の役（一二八一年）といいます。

亀山上皇（一二四九年〜一三〇五年）は、後嵯峨天皇の第七皇子に当たり、在位十五年で譲位。院政をとり、正応二年（一二八九年）南禅寺で出家しました。

亀山上皇は、元寇当時の朝廷における事実上の実権者でした。しかし政治的権利は鎌倉幕府にあり、北条時宗が全国を支配していました。二回目の襲来で博多湾の戦闘が京都へ報じられ、

亀山上皇は元寇襲来に対し「わが身をもって国難に代わらん（身をもって国難に報いたい）」と伊勢神宮に祈願されたといえます。また二五〇人の公家により寝食を忘れた読経が行なわれ、全国二二社に祈禱命令が発せられました。上皇や公家が国家安泰のために尽力できたことは、神社仏閣を総動員しての祈禱です。

亀山上皇像は、この出来事を記念にと湯地丈雄が運動を起し、元寇を愛国精神高揚のシンボルとして明治三十七年（一九〇四年）建立。像の高さは四、八メートル。東公園のほぼ中央に台座があり、「敵國降伏」と書かれた文字は、有栖川宮熾仁親王の御親筆。博多出身の彫刻家山崎朝雲（一八六七年〜一九五四年。彫刻家高村光雲の門下生。）が制作したもので、国松清右衛門が施工に関わりしました。



◆亀山上皇像

墓石加工と

道具の紹介

皆さんは、墓石がどのような道具を使い、加工されているかご存知でしょうか。

そこで今回は、墓石の加工（仕上げの種類）と道具について紹介していきます。弊社作成の図面をお持ちの方は、ぜひ図面と一緒にご覧下さい。では、墓石の仕上げについて説明していきます。

ビシャン仕上げ 石面の叩き仕上げのひとつで、細かい点状の模様を付ける仕上げです。「ビシャン」という道具で叩いて仕上げます。ビシャンというのは、四十ミリ×四十ミリ前後の面を目割した石工道具です。目の粗いものから順に石面を平らにしていきます。**小たたき仕上げ** ビシャン仕上げと同じく、石面の叩き仕上げです。ビシャンの目をさらに両刃または片刃で二ミリ程度の間隔で叩いて仕上げます。石面を平らにする目的の叩きと、筋目を均等につける小たたき仕上げがあります。平行線を刻むように叩き、細やかな凹凸を生み出します。

ビシャン仕上げと小たたき仕上げは、石面の叩き仕上げという点では同じですが、大きな違いは、点状の模様が刻まれるか平行線が刻まれるかという点です。

水磨き 研磨作業の第二段階です。

ちなみに一番初めの工程は、「粗（荒）磨き」といいます。水磨きは、粗磨きの上に更に砥石をかけ、艶が出ない程度まで研磨したものです。400番〜800番の砥石をかけて仕上げます。

本磨き 研磨作業の最終工程です。

800番〜1500番程度の砥石加工をし、その表面に「パフ磨き」を施します。石本来の色艶がはつきりとするまで磨いて仕上げます。

バーナー仕上げ 石の表面に水をかけながら、1800〜2000度の液体酸素と、石油液化ガスの混合ガスで熱し、石の表面を薄く剥離させ、凹凸をつけます。

ウォータージェット仕上げ 石面に高圧の水を吹付けて凹凸に仕上げます。バーナー仕上げと組み合わせる使用こ

とも多く、バーナー仕上げにて表面加工を施した後、ウォータージェット仕上げを行うと、石の色目が鮮やかに出ます。

次に道具を紹介していきます。

ビシャン 仕上げの紹介で少し触れたと思います。ビシャンには、四十ミリ前後の四方の面に基盤の目に切ったような突起がついています。一般的に、突起の数によって25目（5×5）で5枚ビシャンと呼ばれるそうです。また刃ビシャンというもあります。

両刃 主に小たたき仕上げに用いる両端に刃の付いた工具です。

片刃 ハンマー形の一方が刃、他方が丸くなっている石工道具です。



こやすけ 石を割り落とす道具です。語源に確かなものはありませんが、刃先を薄くしたものを一般的に「こやす

け」というそうです。手元の上げ下げによる刃先の石に対する角度で石の落ち方が変わっていきます。こやすけの使い方加工の能率が大いに左右されます。

使い方としては、刃を石の割る部分に当て、こやすけの頭をせつとう（次で説明）で叩き、石を割っていきます。



▲せつとう

せつとう 石工が使用する金槌。

「接頭」「石槌」「切頭」「石刀」「切刀」とも書くそうです。

以上、6つの仕上げと5つの道具について紹介させていただきました。いかがでしょうか。お手元の図面と同じ名前が記載されていませんか。

今回紹介したものはほんの一部です。石材に関する本やインターネットには、このほかにもたくさん仕上げの種類と道具が紹介されています。石の種類が無数にあるように、仕上げにも道具にもたくさん種類があるのだと、私自身、勉強させられました。

町名散歩

第十二回

下呉服町

今回は、国松石材創業の地・博多区下呉服町を散歩します。ついでに、享保二年（一七一七年）まで、さかのぼってみましょう。

江戸期、現在の博多区下呉服町は堅町・浜口町・鏡町・横町・甘家町から成っており、商人・職人の町でした。

時の將軍は徳川吉宗公。享保元年（一七一六年）に、紀伊藩主から第八代將軍に就任しています。翌一七一七年には、皆様お馴染み（？）大岡越前守忠相を江戸南町奉行に登用。この時期に生まれた元禄文化は、商業をはじめとする経済発展を背景に華麗な芸術が花開いたとされており、その主な担い手は町人達でありました。

中央はさておき、その頃の福岡は第五代藩主黒田宣政の統治下にありました。ご城下博多の町々も、元禄の世のご多聞に漏れず、活気溢れる町人達によって華やいだことでしょう。

弊社発祥の地は、横町にあたります。当時は金屋町横町といわれました。

江戸末期には石工・大工・真鍮銅細工などのほか、行商人宿、小道具屋などが立ち並んだとか。その名残を伝える古き良き町並みも、昭和初期の空襲でほとんどが焼けてしまいました。

平成十三年（二〇〇一年）奈良屋小学校跡地に近隣四校が統合された博多小学校から、昭和通り沿いに蔵本交差点を呉服町ランプ方向へ抜けると、下呉服町です。左手に浜口公園が見えてきます。

かつての風情を偲ぼうと、狭い路地へ入ってみました。時折り小さな町屋を見つれることが出来ます。更に町の中程まで進むと、沖浜恵比須神社に至ります。今は鉄柵に囲まれているこの神社ですが、昭和半ばに撮影された写真では、子ども達の恰好の遊び場でした。また、社号表に「笹崎宮境内末社」とあるように、下呉服町一帯は昭和初期まで笹崎宮の氏子であったそうです。



ぼうつと立っているすぐ横を、現代っ子達が自転車を飛ばして駆け抜けて行きました。時は流れてもこの町には、今も昔もかわらんもんがあります。

お知らせ

全優石認定店国松石材は、映画『アルゼンチンババア』を応援しています。

3月末より公開されるこの映画のチケットを先着20名様に、応援価格¥1,170円（※通常価格¥1,800円）にてご提供させていただきます。

販売場所：墓石ガーデン
お申込先：092-672-7257
担当：高田/小田

平成19年秋、平尾霊園下に
ショールーム・オープン予定！

第2回 初夏のハイキングのお誘い

初夏の風を感じながら、山歩きをしてみませんか？今回は初心者コースですので、お友達・ご夫婦お誘い合わせの上、お気軽にご参加ください。

目的地：熊本県阿蘇杵島岳 (1,270m)

日時：平成19年5月19日(土)

コース：博多駅～福岡空港～北熊本～杵島岳～白水瑠璃温泉
午前8:30 午前8:45

ふるさと市場～博多駅～福岡空港（◎マイクロバスにて移動）
午後18:30 午後19:00

歩行時間：往復3時間(途中昼食が入ります)

参加費：3,000円(税込) ※昼食弁当付、温泉入浴料、バス代、ガイド代を含みます。

募集人数：18名

お申し込み：同封のハガキにてお申し込み下さい。

締め切り：平成19年4月10日(火)必着 ※定員に達し次第締め切らせていただきます。

◎詳細は後日、参加者の方にお知らせいたします。

お問合せ：☎0120-245400 担当：高田/中西
(092-957-3500)

第5回「松ぼっくり杯」ゴルフコンペ結果報告

昨年の10月15日(日)、前原市ザ・クイーンズヒルゴルフクラブにて松ぼっくり杯ゴルフコンペが行われました。ゴルフには絶好の天気、参加者は16名。結果は以下の通りとなっています。

優勝	神野 幸樹様	(ネット73.0	グロス85)
準優勝	岩本 宏憲様	(ネット73.4	グロス95)

次回もたくさんのご参加お待ちしております。

プレゼント当選者発表

厳正なる抽選の結果、次の方々が当選されました。たくさんのご応募ありがとうございました。

- ①商品券5,000円分
大塚 栄彦様、濱 謙次郎様、岡部様、納所 恭子様
- ②高級小筆
中村 旭園様、他4名様
- ③ごま豆腐
洲江 修様、他14名様

